

パレスチナ / イスラエルにみる グローバルな二重基準問題



1年余りを経たパレスチナにおけるジェノサイド状況は、従来「中東地域の民族対立・紛争」として描き、理解してきた枠組を解体し、人類社会全体の問題としてとらえ直す必要性を、これまでにない形で明示しています。「あの地域の人たちの特殊な問題」ではなく、グローバルであるがゆえに私たち日本に居住する者も直接関係する、喫緊の問題なのです。



講師 黒木 英充 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授)

専門は東アラブ近現代史。主要編著書に『シリア・レバノンを知るための64章』(明石書店、2013年)、『イスラームからつなぐ1 イスラーム信頼学へのいざない』(東京大学出版会、2023年)、『イスラームからつなぐ4 移民・難民のコネクティビティ』(東京大学出版会、2024年)などがある。科研費学術変革領域研究(A)「イスラームのコネクティビティにみる信頼構築：世界の分断をのりこえる戦略知の創造」(略称・イスラーム信頼学、2020-2024年度)領域代表。

司会 石井 正子 (アジア地域研究所所員・本学異文化コミュニケーション学部教授)

2024年 **12月18日(水)** 17:10 ~ 19:00
立教大学 池袋キャンパス 10号館 X304 教室

申し込み 右のQRコードからお申込ください (定員 先着 100名)



お問合せ：立教大学アジア地域研究所 (E-mail:ajiken@rikkyo.ac.jp Tel:03-3985-2581)